

乙 第 号

横谷 倫世 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	伊藤 利洋
論文審査担当者	委員	病院教授	平井 都始子
	委員(指導教員)	准教授	池田 直也

主論文

Predictive value of tumor-infiltrating lymphocytes for pathological response to neoadjuvant chemotherapy in breast cancer patients with axillary lymph node metastasis

乳癌術前化学療法において腋窩リンパ節転移が陰性化するための効果予測因子の検討

Tomoyo Yokotani, Naoya Ikeda, Tomoko Hirao, Yukimi Tanaka, Kohei Morita,

Tomomi Fujii, Chiho Ohbayashi, Takashi Nakamura, Toyoki Kobayashi,

Masayuki Sho

Surgery Today. 2020 Oct 14. doi: 10.1007/s00595-020-02157-6. Online ahead of print. PMID: 33052489

論文審査の要旨

乳癌の術前化学療法(NAC)は、乳癌診療において広く用いられている治療法である。特に HER2 陽性乳癌は NAC により、原発巣のみならず腋窩リンパ節においても病理学的完全奏効 (Ax-pCR) を認める症例が 40%近く存在するとされている。しかしながら、術前に臨床的腋窩リンパ節転移陽性と診断された患者は、全例に腋窩リンパ節郭清術が施行されている。本研究は NAC 後に腋窩リンパ節郭清を省略するための予測因子の同定を目的とした。2011 年 1 月から 2018 年 12 月の期間に当施設で施行した 629 例の乳癌手術症例において、術前腋窩リンパ節転移陽性と診断し、NAC を行い、その後手術を施行した 60 例を対象とした。治療前原発巣の腫瘍組織浸潤リンパ球 (tumor-infiltrating lymphocytes ; TIL)濃度、乳癌原発巣の Subtype、臨床病理学的因子と NAC 後の Ax-pCR との関連について検討した。60 例中 Ax-pCR を認めたものは 24 例 (40%)であった。Ax-pCR の有意な予測因子を検討した結果、単変量解析では ER/PgR 陰性乳癌 (HR 陰性乳癌)、HER2 陽性乳癌、TIL 高値で有意差を認めたが、多変量解析では、TIL 高値のみが独立した予測因子であった。また、TIL 高値は、60 症例中 25 例 (41.7%) に認めた。この 25 例中の 11 例 (44%)が HER2 陽性で、11 例全例に Ax-pCR を認めた。以上の結果より、治療前原発腫瘍内の TIL 濃度が高く、かつ HER2 発現が陽性の乳癌に関しては、NAC 後に腋窩リンパ節郭清を省略できる可能性がある」と結論づけた。

公聴会においては、Ax-pCR と乳癌 Stage の関係性、TIL のサブタイプ別解析予測、造影超音波検査を用いた Ax-cCR の評価法、TIL と画像検査の関係、本研究の実用化を目指す今後の臨床研究のあり方、また今回の結果に基づく展望等について質疑応答がなされ、いずれも的確な考察のもとに適切かつ的確に回答がなされ、博士 (医学) の学位に値すると評価できる。

参 考 論 文

1. 膵臓浸潤を認めた進行胃癌に対し膵頭十二指腸切除術を施行した 1 例
横谷 倫世, 稲次 直樹, 吉川 周作, 増田 勉, 内田 秀樹, 久下 博之, 山
岡 健太郎, 下林 孝好, 稲垣 水美, 横尾 貴史, 栗崎 基, 宮沢 善夫, 庄
雅之
癌と化学療法 42 卷 12 号 : 2018-2020, 2015
2. 潰瘍性大腸炎に合併した early colitic cancer の 4 例
山口 貴也 , 稲次 直樹, 吉川 周作, 増田 勉, 内田 秀樹, 久下 博之, 横
谷 倫世, 山岡 健太郎, 下林 孝好, 稲垣 水美, 榎本 泰典
Gastroenterological Endoscopy 53 卷 4 号:1278-1287, 2011
3. Clinicopathological and prognostic significance of mucin phenotype in gastric
cancer
Wakatsuki K, Yamada Y, Narikiyo M, Ueno M, Takayama T, Tamaki H, Miki K,
Matsumoto S, Enomoto K, Yokotani T, Nakajima Y.
J Surg Oncol. 2008 Aug 1;98(2):124-9.
4. Prognostic significance of platelet-derived growth factor-BB expression in human
esophageal squamous cell carcinomas
Matsumoto S, Yamada Y, Narikiyo M, Ueno M, Tamaki H, Miki K, Wakatsuki
K, Enomoto K, Yokotani T, Nakajima Y.
Anticancer Res. 2007 Jul-Aug;27(4B):2409-14.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに消化器機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年3月9日

学位審査委員長

免疫学

教授 伊藤 利洋

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

病院教授 平井 都始子

学位審査委員(指導教員)

消化器機能制御医学

准教授 池田 直也